

カリキュラム・マネジメントに取り組む学級担任が抱える課題とその対応

－ 単元内自由進度学習の実践をもとに －

学校力開発分野(21822807) 富士村 拓郎

本研究の目的は、カリキュラム・マネジメントに取り組む学級担任が抱える課題を、アンケート調査を基に明らかにし、その対応策について考えることである。研究の結果として次の2点を得ることができた。1点目は、学級担任が抱える課題として多忙感が強く、新しい実践へのためらいが大きいということが明らかになった。2点目は、明らかになった課題を解決するために、単元内自由進度学習の可能性を確認することができた。

[キーワード] カリキュラム・マネジメント、学級担任、個別最適な学び、単元内自由進度学習

1 問題と目的

(1) 問題の所在

小学校学習指導要領解説総則編(2017)では、各学校における教育活動の質の向上を図るために、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施していくカリキュラム・マネジメント(以下、カリマネという。)の充実の必要性を提起した。また、教育課程の編成や改善の手順を示しており、教育課程の編成においては、指導の内容を選択して、組織し、それに必要な授業時数を定めることと例示している。このことから、教師が授業を構想する方法が示されたことになる。

奈須(2019)は、「教育課程を編成するとは、目標論、内容論、方法論の3つからなり、学校が責任をもって意思決定しあるいは開発すること」と定義しており、その3つの中のうち、方法論については実際に授業を行う学級担任に任せられている部分が多い。また、奈須(2021)は、近代学校への批判として、書物中心の暗記主義と一斉画一的な指導の在り方の問題点を指摘しながら、個別最適な学びを実現するための方法の一つとして「単元内自由進度学習」を紹介している。

今後の学校教育においては、従来の一斉指導のみであったり暗記主義的であったりと、「集団」重視の指導から、より「個」を重視する指導の在り方に力を注いでいくことが求められている。また、これらを実現するにあたっては、教師個々の努力に委ねるのではなく、組織的・計画的に学校として推進していくことが必要であり、カリマネの一層の工夫改善が強く求められる。中央教育審議会

(2021)の答申では、「令和の日本型学校教育」の構築に向けて、カリマネの一層の充実と、その重要性が示されていることから明らかである。

(2) 研究の目的

本研究では、筆者の所属校(以下、A校という。)において、カリマネに対する課題を明らかにし、その課題の解決に向けて、どのようにしてカリマネを中核に個別最適な学びを組織的・計画的に実現していくかについて検討していく。またその際、筆者が実際に取り組んだ「単元内自由進度学習」の実践を基に、A校における単元内自由進度学習の可能性を考察していく。

2 研究の方法

まず、A校のカリマネの現状を、アンケート調査を基に明らかにする。次に、筆者の「単元内自由進度学習」を取り入れた授業実践の分析を行う。最後に、今後カリマネを核にしてどのように個別最適な学びを実現していくかを展望する。

3 アンケート調査

(1) 調査の概要

カリマネに対しての学校全体の意識や各教員の悩みなどを調査するため、田村ほか(2016)の質問紙を使用した。質問紙は学校代表者用と教諭用の2種類からなり、4件法の選択式(学校代表者用84問、教諭用45問)となっている。そこに、教師の実践を通じた具体的な意見や考えを調べるために、筆者が自由記述式の問いを追加し、カリマネにおける成果や課題などを記入してもらうようにした。

A校は、全校児童64名、教員数は養護教諭を含

め12名で、全学年一学級の小規模校である。A校では、2020年度からカリマネについての校内研修を積み重ね、2021年度より本格的にカリマネに取り組んでいる。調査対象は校長、教頭、授業を担当している教諭、講師とした。

アンケートは2021年10月に実施し、学校代表者用は校長、教頭、教務主任の3名、教諭用は8名、計11名の回答を得ることができた。

(2) アンケート調査の結果と考察

アンケート調査における学校代表者と教諭の共通項目において、両者の平均とその差をまとめたものが表1である。なお、「テーマ」の欄は筆者が質問項目の文章を要約したものである。

まず、学校代表者用と教諭用で対応している項目を比較すると、両者の間で多少の差異はあるもののそれほど大きな差は見られず、同じような意識でカリマネに取り組んでいることがわかる。

次に、選択式の設問において、学校代表者、教諭共に低い数値となったのを見ていくと、No.9「教科書や指導書に沿って授業を行うのに手一杯な教職員が多い。(逆転項目)」(学校代表者2.7、教諭2.6)、No.17「パフォーマンス評価など、思考力・判断力・表現力などを評価する方法の開発や実施に取り組んでいる。」(同じく2.0、2.1)、No.42「教職員の多忙感が強い」ため、今以上の役割分担や新

しい実践の開始にためらいを感じる。(逆転項目)」(同じく3.0、2.6)という3つの項目の数値が学校代表者、教諭共に低い結果であることがわかる。

最後に、自由記述式の回答からは、「一年間の各教科等の見直しをもつことができた」「力を入れたところが整理された」「学級経営にも生かされている」というよさがあった。しかしその反面、「カリマネに取り組む時間の確保が課題」「これではいいのか手探り状態であり、資料や情報がほしい」「担任によりカリマネへの意識の差が大きい」という課題が多く聞かれた。

これらの結果から、日々の業務で多忙感が強く目の前の授業を進めるので手一杯であるという教員の実態が見えてきた。そういった中でカリマネに取り組んでいるものの、どのようにカリマネに取り組んだらよいかわからないという声も多く、カリマネの意義やねらいについての共有も必要である。また、パフォーマンス評価に代表されるように、思考力・判断力・表現力を高める指導についても課題が見られ、教師の授業に対する工夫や改善が進んでいない現状が明らかになった。

このような課題を踏まえると、方法論へのはたらきかけが必要であり、カリマネを通して指導方法への共通理解を図り改善していくことがA校の課題の解決につながるのではないかと考える。

表1 アンケート調査における共通項目のテーマ及び結果

No.	テーマ	代表者平均	教諭平均	代表者-教諭	No.	テーマ	代表者平均	教諭平均	代表者-教諭	No.	テーマ	代表者平均	教諭平均	代表者-教諭
1	自校の学力傾向等の共有	3.3	2.6	0.7	16	息の長い指導	2.7	2.6	0.0	31	学校の特色の説明	3.0	2.9	0.1
2	具体的な教育目標	3.7	2.8	0.9	17	パフォーマンス評価	2.0	2.1	-0.1	32	教員相互の知識・技能の提供	3.0	2.8	0.3
3	教育目標の児童への理解	3.3	2.4	1.0	18	総合 探究の過程	2.7	2.8	-0.1	33	新しい実践への前向きさ	3.0	3.1	-0.1
4	経営案間の連動	3.3	3.3	0.1	19	主体的・協働的な学習	3.0	3.1	-0.1	34	教育政策の学び	2.7	2.9	-0.2
5	評価規準の計画	3.3	3.0	0.3	20	言語活動	2.3	2.9	-0.5	35	教員間の信頼関係	3.3	3.1	0.2
6	年間指導計画の活用	3.3	3.4	0.0	21	実生活・社会との関連	2.7	3.1	-0.5	36	挑戦の推奨と安心感	3.0	3.0	0.0
7	年間指導計画の柔軟な変更	3.3	3.5	-0.2	22	研究主題の意識化	3.3	3.1	0.2	37	学校全体を考えた行動	3.3	3.1	0.2
8	教育・重点目標への意識	3.3	3.0	0.3	23	授業研究の日常化	3.0	3.0	0.0	38	教職員の自主性	3.3	3.0	0.3
9	日々の指導への手一杯感	2.7	2.6	0.0	24	授業研究 学校の課題解決	3.0	3.0	0.0	39	教職員間の相互批評	2.7	2.1	0.5
10	各教科等の関連を図った授業	3.3	2.9	0.5	25	総合と地域貢献	2.3	2.8	-0.4	40	児童の成長の共有	3.7	3.4	0.3
11	系統性を意識した指導	3.3	3.3	0.1	26	地域人材の活用	3.0	2.4	0.6	41	教職員の充実感	2.7	2.8	-0.1
12	計画改善に向けた記録	2.7	2.4	0.3	27	児童と創造する教育活動	3.3	3.0	0.3	42	多忙感 新しい実践へのためらい	3.0	2.6	0.4
13	良さの記録・共有化	3.3	2.5	0.8	28	教師と児童の協力	3.0	2.9	0.1	43	児童指導重視	1.7	1.8	-0.1
14	学力調査等の活用(計画案)	2.7	2.1	0.5	29	校長のビジョン・方針の共有	3.7	2.8	0.9	44	教科指導重視	2.3	2.5	-0.2
15	学力調査等の活用(指導法)	3.0	2.6	0.4	30	教員のリーダーシップの発揮	2.7	2.5	0.2	45	組織的な児童の育成	2.7	3.0	-0.3

・各項目の平均値は、4件法の結果を得点化したスコアの平均値のことである。

・平均値の網掛けは、2.5より低いものである。

・テーマの網掛けは逆転項目であり、平均値が2.5より高いものを上記同様網掛けとした。

4 実践

(1) 単元内自由進度学習

文部科学省初等中等教育局教育課程課(2021)の資料によると、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められている。また、その際にはカリキュラム・マネジメントの取組を一層進めることが重要であるとされている。

「個別最適な学び」を充実させるための一つに「単元内自由進度学習」がある。愛知県豊浦市立緒川小学校(2013)では週間プログラムと呼ばれており、学習のねらいは共通であるものの、それに迫るための学習方法については子どもたちの計画に委ねている学習である。つまり、学習時間や興味・関心、学習の進め方といった子どもたち一人ひとりの持ち味に対応できるように構成されるものである。学習活動を通して、子ども一人ひとりの自ら学ぶ力を高めることを目指す学習である。

(2) 対象と単元名

山形県内B小学校で実践を行った。対象は5年生28名で、単元は算数「分数のたし算とひき算」である。

(3) 単元計画

単元の冒頭第4時までこれまで通りの一斉指導とし、本単元で基となる通分の考え方を指導した。その後、単元内自由進度学習を取り入れ、一斉指導で学んだことを活かしながら自分のペースで学習が進められるよう計画した。第10時の「時間と分数」は、みんなで練り上げ深めたい内容だったので、一斉指導とした。このように、一斉指導での学びが自由進度で生かされ、自由進度での個の学びが一斉指導でさらに深まるような流れとした。

時	学習形態	主な学習活動
1・2	一斉指導	大きさの等しい分数のつくり方の理解
3・4	↓	通分の意味の理解
5・6	自由進度	ガイダンス・約分の意味の理解
7		異分母分数の加減計算の習得
8		帯分数の加減計算の習得
9	↓	分数と小数の混合計算の習得
10	一斉指導	分数を用いた時間の表し方の理解
11	自由進度	単元全体の習熟・発展問題

日付	教科書	学習すること	習得率	サイン
1	【自由進度】P10～11	① $1/3+1/6$ の計算のしかたを考えよう ② $9/18, 3/6$ と同じ大きさの等しい分数で、分母が同じばんこい分数を見つけよう ③ 「約分」の意味ややり方をまとめよう		
2	【自由進度】P12	① 約分の練習問題 ② ますりん通信を読んで、約分の意味を見なおそう	3・4	
3	【自由進度】P13	① $1/6+3/8$ の計算のしかたを説明しよう ② 分母のちがうたし算、ひき算の計算のしかたをまとめよう ※「デジタルコンテンツ」あります		
4	【自由進度】P14	① $3/4-1/2$ の計算のしかたを考えよう ② 帯分数の計算のしかたをわきまよう	3・5	
5	【自由進度】P15	① $2/5+0.3$ の計算のしかたを考えよう ② いっでも計算できる方法は、数にそろえる		
6	【みんなで】P16	① 分数を使って時間を表そう	3・6	
7	【復習】P17・18	① たしかめよう ② つないでいこう 算数の目		
	【発展】早く終わったら	① おもしろチャレンジ IP144(1) ② 学習のひみつ IP144(2) ③ 練習プリント		
エッセイチャーム	各自課題を進める	ふり返り		
課題の確認 10分	30分	5分		

図1 第5時からの学習進行表

(4) 授業の実践

第5時の冒頭でガイダンスを行い、図1の学習進行表を提示して「1人で進めてもよいし、友達と一緒に進めてもよい」「自分に合った方法を選んで学習を進めよう」「互いにどんどん教え合おう」と子どもたちに伝え、自分のペースで学習に取り組み始めた。教科書をベースに学習を進行し、解答を掲示しておいて、自分でできを確かめながら学習を進められるようにした。また、タブレットを利用したデジタル教材や自作の練習問題、早い子のために発展的な難問プリント等を用意し、自分に必要な教材を子どもたち自身が自由に選べるようにした。

5 実践の結果と考察

単元内自由進度学習の時間では、自分の学び方を見直して必要に応じてグループを組む相手を変えたり、場面によっては分かれて1人ずつで学習をしたりと工夫しながら学習を進めた。自分は1人がいいから、と最初からずっと1人で黙々と進めていた児童もいたが、友達からの質問に応じて、相手の近くへ移動して教える姿も見られた。

単元内自由進度学習に初めて取り組んでみて、「集中して取り組めた」「友達と教え合って説明する力がついた」「自力で解く方がしっかり理解できた」というふり返りが多く見られた。

(1) 児童の振り返りから

① 児童 A

今日は「自己調整力」を意識して一人で問題を解いてみたが、自分の力でどんどん進むことができた。自分の強みを生かした方法で解くことができた。音符の発展問題では、文の読みまちがいで解けなかったが、しっかりと「自分の力」で解くことができたのでこれからの勉強に生かしていきたい。

単元のはじめの頃から「私、単元内自由進度学習が好き。」と言っていた児童である。この学習でねらっている「自分に合う方法を選ぶ」ことをよく理解し、普段あまり扱われなかった発展問題にも挑戦できて、達成感を味わうことができています。

② 児童 B

C さんに教えているうちに、まちがえやすいポイントと見直しのポイントが分かってきた。家で練習問題をして工夫したい。友達と学ぶと、いろいろな考えを知れることが分かって楽しかった。

ゆっくり教えてもらおうと分かる児童 C と 2 人で学習に取り組んだ。授業時間では、家でもできる練習問題は後に回し、時間や手間を惜しまないで C の理解を見ながら共に学習を進めた。友達との学び合いの中で自分の考えが深まることを実感し、力をつけた児童である。

(2) 考察

子どもたちに学習の進め方を任せ、自分で学び方を選びながら自分のペースで学習に取り組むことで、子どもたちはより主体的に学習に取り組み、自分で必要なものを選択し自己調整しながら自力で学習を進める力をのばすことができた。また、「自分で学ぶと楽しい」ということに気付き、学習意欲も高まった。この結果は、A 校の学校教育目標や目指す子ども像を実現している姿といえる。

6 総合考察

まず、カリマネについてのアンケート調査では、日常的な多忙感や負担感が強く、教科書や指導書を中心に日々の授業を進めることに手一杯であり、「授業をこなす」という学級担任が抱える課題が見えてきた。教師個々の指導により学校教育目標を実現していくことがカリマネの最終目標であるが、A 校においてはその段階までには到っていないという実態があった。

次に、実践では、方法論の一つとして単元内自

由進度学習を取り入れることで、児童の自己調整力を高め主体的に生き生きと学習に取り組む子どもたちの姿を実現することができ、単元内自由進度学習の可能性を確認することができた。

A 校におけるカリマネの更なる充実のために、授業改善の方法論として単元内自由進度学習を取り上げ、教師間の協働的な学びの展開を実現していきたい。教師の「授業をこなす」現状だからこそ、教師同士が方法論を共有し協働的に学び合うことが必要である。そして、この教師の学び合いを実現するための仕組みとして、カリマネの促進やより一層の充実が重要である。

引用文献

- 愛知県東浦町立緒川小学校(2013)『改訂個性化教育 30 年 ～緒川小学校の現在～』, 中部日本教育文化会, 65-67.
- 中央教育審議会(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」.
- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』, 東洋館出版社.
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課(2021)「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」.
- 奈須正裕(2019)「教育課程編成の本来の姿を踏まえたカリキュラム・マネジメントを」, 『山形教育』, 第 384 号, 61-64.
- 奈須正裕(2021)『個別最適な学びと協働的な学び』, 東洋館出版社.
- 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵(2016)『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』, ぎょうせい, 44-50.

The issues faced by classroom teachers working on curriculum management and how to deal with them : Focus on free progress learning within a unit

Takuro FUJIMURA